会議録(要旨)

会議名等	令和 6 年度当事者会 2 月定例会	文 責	障がい福祉室
日 程	令和 7 年 2 月 13 日 午後1時30分～3 時 30 分	場 所	総合福祉会館 第3会議室

1. 吹田市自立支援協議会地域会議(千里山・佐井寺) の振り返り

吹田市地域自立支援協議会地域会議(千里山・佐井寺)から依頼があり、令和 7 年 1 月 19 日に吹田市立千里山・佐井寺図書館で実施された「障がい者サービス丸ごと見学ツアー」に参加したことを振り返り、意見交換を行った。

【意見】

- ・読書バリアフリーについて案内を受けた。様々な障がいに対応した図書(音声のトーン変更ができる等)を知ることができた。参加してよかったと思う。
- ・吹田市内で最もバリアフリーが進んでいる図書館と聞いていたが、図書館の入り口のうち一つが手動の開き戸になっており、車椅子ユーザーが一人で出入りできなかったことが残念だった。バリアフリー図書の推進も良いことだが、まず入り口(環境)のバリアフリー化、合理的配慮が必要なのではないか。
- ・市民の多くは図書館に行く意欲自体が湧きにくいと思う。市民がより足を運びたいような図書館になればと思う。
- ・知的障がい者は意思表示できなかつたり、環境に適應するのが難しかったりする特性がある。知的障がい者もリラックスし、快適に利用できる環境づくりを進めてほしい。
- ・図書館という環境は知的障がい者が楽しめる要素が著しく少ないため、知的障がい者およびその家族はそもそも「図書館に行く」という選択肢を取らないと思う。
- ・知的障がい者の家族は、図書館など静かな環境に行くと「騒いではいけない」との思いから心から楽しめない。例えば、大きな声を出しても構わない環境など、知的障がい者が気軽に利用できるような図書館があれば、と思う。
- ・図書館をはじめ市内の様々な公的施設には、より多くの人を楽しめるような環境づくり・工夫を今後も進めていってほしい。

2. 「障がい者児のための防災ハンドブック」について

12月定例会において最終の内容確認を行った後、役員会及び運営事務局で一部イラストの差し換えおよび出典元の記載など、微修正を行った。令和 7 年 4 月公開・配布に向け、印刷の手配を進めている。

【意見】

- ・配布について、市役所の窓口だけでなく、市内の図書館をはじめとする公共施設にも依頼してはどうか。
- ・市内の駅などでは市報を配架している。防災ハンドブックも同様に配架してはどうか。

3. 吹田市自立支援協議会全体会について

令和 7 年 3 月 24 日に開催予定。令和 6 年度当事者会の取組について、会長から報告を行うもの。

4.その他

・障がい福祉室 基幹グループから 障がい者差別解消支援専門部会の活動報告

「障がい者差別解消支援専門部会」は令和 5 年度から吹田市地域自立支援協議会の専門部会として発足。令和 6 年度においては令和 7 年 1 月 30 日に第一回会議を実施した。第一回会議の目的としては、「合理的配慮」について理解を深めることとし、吹田市が実際に相談を受けた事例の共有・意見交換を主とし、専門家による講義の受講および参加委員においてグループワークを行った。グループワークのテーマについては、事前に委員から収集した事例のうちから2事例を選定した。

【意見】

(障がい者差別解消支援専門部会に参加した委員から)

- ・今回の事例について議論する時間が15分というのは短く感じた。
- ・「合理的配慮」は英語を直訳した言葉であるが、本来は「配慮」ではなく「調整」などの表現が望ましいと思っている。日本は未だに「してあげた」「しなければ」という意識が強くあり、「配慮」という言葉はこの意識を増幅させるのではないかと感じている。
- ・当日は様々な職業の委員が参加しており、多様な意見が飛び交った。社会および障がい者の課題を解決するにあたり、行政はもちろん、教育や医療等の様々な機関が参画し、活発に連携することが必要だと思う。
- ・バリアフリー推進会議や当事者会で、「バリアフリーとは何か」をはじめ、様々な議題が出るが、向かう先は一つであり、それは「障がい者のための社会づくり」であると思っている。

(定例会参加委員から)

- ・「合理的配慮」は「健常者が障がい者に対して行うもの」という前提が浸透していると感じている。
- ・以前にコンビニ入店拒否を受けた際に、「コンビニに入って買い物をする」という当たり前の行為に「合理的配慮」を求めることに違和感をもった。「配慮してもらっている」「配慮してあげている」などの感情を抱くことにも違和感がある。
- ・過去に「車いすに乗っているなら外出するな」「バスに乗るな」などの意見を受けたことがある。この意見を受けた際、「合理的配慮」をしてほしいということではなく、外出することもバスに乗ることも、ごく当たり前のことを行うために「配慮をする」「配慮を受ける」ことは、障がい者・健常者に関わらず人としてごく自然なことなのではないかと思った。

以上